

「地理 A」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	海洋科学科 第2学年A～C組

但し、2A、2Bクラスは、2学期あるいは3学期に長期航海実習があるため、残りの学期での3単位の授業となる。

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	第一「高等学校地理A 世界に目を向け地域を学ぶ」 帝国書院「新詳高等地図」

2 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意識的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	・授業活動への参加の仕方及び態度 ・提出物の期限内の提出
思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、考察の過程や判断した結果を適切に表現する。	・定期考査 ・授業プリントの記入内容 ・発表の内容や方法
資料活用 の 技 能 ・ 表 現	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の理知的事象を追求する技能を身に付ける。	・地図作業の精度 ・地図帳の準備 ・資料の読解
知 識 ・ 理 解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけている。	・定期考査 ・発問に対する回答内容

3 評価

単位の修得認定については以下の通りとする。
①出席が総授業数の2/3以上あること（ 授業中寝ている者は欠課とする ）。遅刻や早退が無いこと。 ②毎時間の目標を達成するように授業に意欲的に取り組むこと。 ③提出物（授業プリント、課題プリント、その他指示されたものなど）を期限までに自分で仕上げ提出すること。 以上の①～③が全て認められなければ、定期考査の点数がいくら良くても修得は認定されない。

1・2学期の中間テストの成績は、考査の点数をそのまま成績とする。

1・2学期の学期末の成績は、中間と期末の考査を70%、平常点（上記の①～③）30%の配分で総合的に評価する。（ 学習態度が悪い時は平常点で大幅に減点する ）

年間の学習評価については、1・2・3学期の成績を総合評価して、単位の修得認定あるいは不認定を決定する。

4 学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	考 査
第1	1章 地球儀や地図でとらえる現代世界 ①球面で世界を考えよう。 ②世界地図の特徴を知ろう ③世界観の広がり ④国家の領域と領土問題 ⑤国家をこえた結びつき ⑥交通機関の発達と縮小する地球世界	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地理を学ぶ意義、一年間の内容、学習や評価の方法を理解する。 ・グローバル化が急速に進んでいる現在では、平面で認識していた世界を、地球という球面で考えていかなければならないことを地図を使った作業とおして学習する。 ・地球儀上の位置の示し方や時差の考え方を学び、時差の計算ができるようになる。 ・国家の要件・領域・領土問題について知る。 ・交通や通信の発達によって、生活、社会、産業などの関係がどのように変化してきたかを理解する。 ・人・「もの」・資本の移動により、国際貿易、国家間の結合などが活発化・複雑化していることを理解する。 	中間考査
	⑦情報・通信で一体化する世界 ⑧人・「もの」・資本で結びつく世界	5		

学 期	第2章 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	6	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活様式の差異を、地理的環境との関わりから理解する。 ・世界の自然環境を地形と環境の面からとらえなぜ差異が生まれるのか、人間生活にどのように影響しているのかについて理解する。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学ぶ。 ・世界の人々がもつ民族性や言語、宗教を教科書の資料を適切に使用して理解し、現在発生している民族問題の本質を考察する。 	期末 考 査
	<ul style="list-style-type: none"> ①さまざまな環境のなかで暮らす人々 ②世界的視野から見た地形 ③さまざまな地形と生活 ④世界的視野から見た気候 ⑤世界の気候と生活 ⑥世界の民族のさまざまな生活文化 ⑦生活・文化を支える産業の地域性 			

第 2 学 期	第3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	8	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地での人々の生活・文化は、その地域をめぐる長い歴史や自然環境に影響を受けることが多いことを理解し、日本の生活・文化を絶対視することなく、教科書の写真・地図を正確に読み取って広い視野から異文化を理解・尊重する態度を養う。 ・韓国・中国の自然環境や大きく変化した経済と社会や生活・文化を理解し、将来の日中・日韓関係について考察する。 ・インドの宗教と密接に関連した生活と変化について学ぶ。 ・ヨーロッパの中の自然環境の違いやたどってきた歴史の違い、すなわち地域性を学び、一体化の進むヨーロッパ社会の現状を、EUの結びつきの過程などから理解する。 ・移民の国アメリカ・カナダに注目しアメリカの移民社会と現在の多文化社会の特徴が、産業・大衆文化の形成にどのような影響を与えてきたかを理解するとともに、アグリビジネスやICT産業に代表されるアメリカの先進性について理解を深める。 	中間 考 査
	<ul style="list-style-type: none"> ①東アジアの暮らしを学ぶ ②東南アジアの暮らしを学ぶ ③南アジアの暮らしを学ぶ ④北アフリカ・西アジア・中央アジアの暮らしを学ぶ ⑤中南アフリカの暮らしを学ぶ ⑥ヨーロッパの暮らしを学ぶ ⑦ロシアと周辺諸国の暮らしを学ぶ ⑧北アメリカの暮らしを学ぶ ⑨中央・南アメリカの暮らしを学ぶ ⑩オセアニアの暮らしを学ぶ 			
学 期	第4章 さまざまな地球的課題	11	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを理解する。 ・資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、新エネルギー開発の必要性について考察する。 ・地球環境問題を学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 ・国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力についてグローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。 	期末 考 査
	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の違いとつながりに注目する ②人口問題 ③食料問題 ④都市・居住問題 ⑤資源・エネルギー問題 ⑥地球環境問題 ⑦地球的課題への取り組みと国際協力 			

第 3 学 期	第1章 日常生活と結びついた地図	1	<ul style="list-style-type: none"> ・観光マップや所要時間マップ、バス路線図や古地図など教科書に掲載されている地図に関心をもって参照し、また身近にあるさまざまな地図を収集し、地図を読むことの楽しさを理解する。 ・教科書に掲載されている写真や地図・図版を適切に参照し、自然災害が多発する日本列島に、豊かな文化が築かれた背景を考察する。 ・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、現象やこれまで受けてきた被害を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。 ・自然災害に備えるためにはハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際になるべく減災できるよう、地域防災力を高めるために一人一人ができることを話し合い確認しあう。 	学 年 末 考 査
	<ul style="list-style-type: none"> ①地図をもって生活しよう ②身近な地図を読みこなそう ③地図表現について考えよう ④地形図を活用しよう 			
学 期	第2章 自然環境と防災	2	<ul style="list-style-type: none"> ・観光マップや所要時間マップ、バス路線図や古地図など教科書に掲載されている地図に関心をもって参照し、また身近にあるさまざまな地図を収集し、地図を読むことの楽しさを理解する。 ・教科書に掲載されている写真や地図・図版を適切に参照し、自然災害が多発する日本列島に、豊かな文化が築かれた背景を考察する。 ・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、現象やこれまで受けてきた被害を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。 ・自然災害に備えるためにはハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際になるべく減災できるよう、地域防災力を高めるために一人一人ができることを話し合い確認しあう。 	学 年 末 考 査
	<ul style="list-style-type: none"> ①日本の自然と生活 ②自然災害に備えた暮らし 			

※確かな学力を身につけるためのアドバイス

- 地理Aの学習では、問題を見つけ、その原因を探り、解決に向けての行動を考えてゆくことを大切です。「何がどこにある」をたくさん憶えることだけがゴールではありません。「なぜそこにあるか」について、ものの見方や考え方を身につけ、分析や表現の技能を習得することが本当の学力につながります。
- プリントを使っている作業や講義では、板書をそのまま写したり、ただ作業を進めたりするのではなく、見方や考えからのヒントになる事柄をメモしたり、自分の感じたことや考えを整理して書き込んでいくと、後の学習に拡がりがあります。
- 地図帳は地理の学習には不可欠です。地名を覚える楽しみを味わって下さい。地図を眺めながら分かっていくことを大事にしてください。

※授業を受ける時に守るべき事項

- ノートを取ることは学習の基本です。何が大事な学習内容かを考えながらノートを取りましょう。欠席した場合は、その時のプリントを級友から借りて写させてもらいましょう。
- 授業には積極的に参加して下さい。質問があれば遠慮なく出してください。
- 提出物は期限までにしっかり提出しましょう。

※ 担当者からのメッセージ

- ・ 地理の学習にあたって大切なことは、地表に見えている物や事柄に興味を持つということです。授業はその手助け作業ですから、次のことを念頭において臨んでください。
- (1) 気づくこと＝地表にある物や事柄などは漫然と見過ごすことが多いのですが、山、川、空、街、人、などなど何でも、それがそこにある理由を考えるのが地理の学習の出発点です。それが人であるなら、人種、民族、文化、生活と多彩な側面が見えてくるはずですよ。
 - (2) 想像すること＝地表にある物といっても遠い所や外国のことは分かりません。活字や地図や写真を見て想像してください。想像することで頭が自由になります。想像して見えてくるものを探しましょう。例えば、北海道や外国の、山、川、空、街、人・・・について。
 - (3) 確かめること＝見えてきたものを、それが本当かどうかを調べて、確かめましょう。時には間違っているかも知れませんが、調べることが大事です。それが確かなことだと分かったら、今度はその理由を考えましょう。それが何故そうなのかという理由です。それが物事を「知る」という作業です。
 - (4) 分かり合おう＝勉強は世界の人々が豊かで平和に暮らせるようにするものです。そのためには自然を大切に、他者を理解し、自分を相対化することが必要です。相対化することで自然や他者との対等な関係が出来ます。そのうえで、自分が出来ること、人と協力してできることを見だし、課題の解決を進めましょう。